

平成 29 年度 学校教育自己診断 総括

回答数等

	生徒	保護者
回答数	989	741
在籍	999	999
回収率	99.0%	74.2%

＊ここでの％は、回答数を母体として算出したものである。

【Ⅰ】生徒・保護者アンケートで肯定的な意見が 90％を超えるもの

【生徒】① 学校生活は楽しく入学して良かった。(91.2→92.3→91.5%)

⑪ 文化祭・体育祭や部活動等において生徒は自主的に活動している。(95.1→94.4→94.8%)

⑮ プロジェクター等の映像機器を活用した授業は効果的である。(88.7→90.0→92.1%)

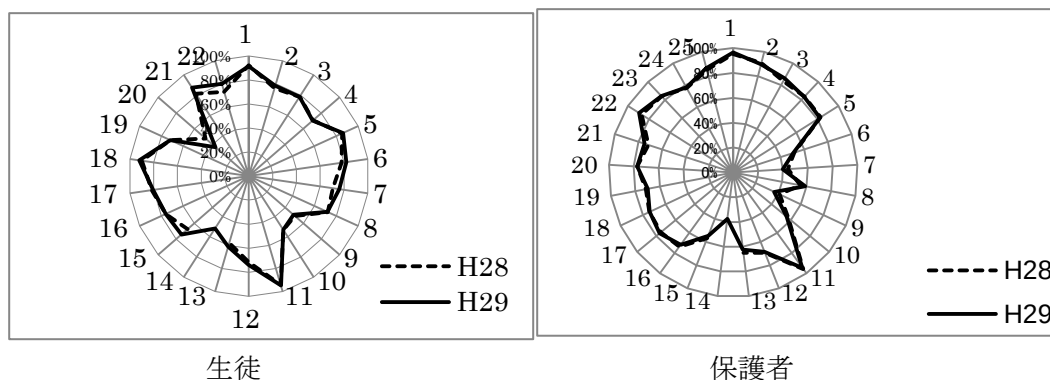
【保護者】① お子様にとって学校生活は楽しく入学させてよかった。(95.0→95.3→96.3%)

⑪ 文化祭・体育祭や部活動等において生徒の自主性が発揮されている。(94.2→95.8→94.6%)

【分析】

①、⑪の両項目ともに学校運営の指針として重要な事項であり、肯定的意見が多いのは本校の学校運営が順調であることを示している。⑮の生徒の肯定的評価は年々上昇しており、プロジェクターなどを活用した授業が本校では定着しつつあることを示している。

【Ⅱ】生徒・保護者アンケートの経年変化から



(1) 進路指導に関する事項

【生徒】⑤ 必要な進路情報の提供など、適切な進路指導を行っている。(85.8→85.4→86.4%)

【保護者】④ 学校は、生徒が必要とする進路情報（大学・職業等）の提供など適切な進

路指導に努めている。(80.4→83.7→83.4%)

【分析】

進路に関するこの項目は、最近4ヵ年においても概ね[I]で挙げた2項目に次ぐ高い数値で推移しており、現在の指導を継続・発展させることが望ましいと考えられる。今後とも入試制度や進路に関する情報を積極的に収集し、生徒の志望する進路の実現を目指して引き続き努めるとともに、自主自律の精神の涵養を重要視する立場に立ち、情報過多や生徒が受身の姿勢とならないよう留意し、指導を行う。

(2) 授業に関する事項

[生徒] ⑦ 満足できる授業が多い。(70.2→70.8→75.9%)

[保護者] ⑧ 満足できる授業が多いと聞いている。(56.7→55.0→58.9%)

【分析】

過去5ヵ年でも連続して7割以上と生徒には肯定的な意見が多い。ここ数年、教員の入替わりもめまぐるしいので、教科内で連携し、三丘生が期待する授業の質を保証していく必要がある。

(3) 施設・設備、校内美化に関する事項

[生徒] ⑪ 学校の施設設備は学習環境として適切である。(82.9→81.7→80.5%)

[保護者] ⑪ 学校の施設設備は学習環境として適切である。(77.2→75.5→76.7%)

【分析】

生徒・保護者ともに肯定的な意見が多いが、徐々に老朽化は進み、各所で点検・整備が必要な施設設備が多くなってきている。改修・整備は行っているが、追いついていないこともあり生徒の肯定的意見が減少していると考えられる。

(4) PTA活動に関する事項

[保護者] ⑫ 現在の本校のPTA活動は適切である。(70.2→71.5→74.9%)

【分析】

例年、保護者の肯定的な意見が多く、保護者同士の交流の場として果たす役割は大きい。また、教職員でも同窓会・PTA・後援会が学校をよく支援してくれていると考えている者が97.9%と高い値を示している。

(5) 三丘セミナー等に関する事項

[生徒] ⑬ 総合的な学習で受講した三丘セミナーや体験授業は役立っている。(74.8→71.8→71.9%)

[保護者] ⑬ 総合的な学習で受講した三丘セミナーや大学見学、医療体験などは役立っている。(81.3→84.1→84.2%)

【分析】

この項目は肯定的な意見が毎年高く、三丘セミナー、その他の体験授業の充実を評価していると判断でき、今後も工夫しながら継続・発展させるのが望ましいと考える。

(6) 本校の伝統に対する生徒・保護者意識に関する事項

[生徒] ⑭ 本校の自主自立(自律)を尊重する伝統は活かされている。(67.1→76.0→78.2%)

[保護者] ⑭ 本校の自主自立を尊重する伝統はよく活かされている。(87.9→90.8→89.8%)

【分析】

生徒の意識では、一昨年度はさまざまな制度改変が自主自立の精神に基づいた生徒の活動を阻害しているにとらえられていて、かなりの落ち込みが見られたが、順調に回復している。保護者の意識では、あまり変化はなく、肯定的見解が圧倒的に多い。本校の伝統である自主自立の精神を育成する方向での指導が望まれる。

【Ⅲ】学年別（普通／文理学科別）の集計結果（生徒用）から

文理学科と普通科においては特に大きな差異は感じられない。全体に、第1学年で中学校では経験の少ない事項が肯定的評価を大きく上げているようである。そのためか、いずれも学年の進行とともに肯定的評価が下がっていく。第1学年では以下の3つの項目に特徴がみられた。

⑥ 学校生活を通じ、将来の生き方を考える様々な機会がある。

㊸コミュニケーション等に必要な英語を学ぶ機会がある。

⑧大学受験に必要な科目にもっと重点を置いた授業をしてほしい。

【分析】

⑥に関しては、三丘セミナーや京大見学会などの影響と考えられる。㊸に関しては、4技能型の授業の影響が大きいものと考えられるが、英語科の授業を通じて学年全体にコミュニケーション英語を学ぶ雰囲気が浸透してきたようである。また、⑧では肯定：生徒 71.8%、保護者 50.5%と大きな隔たりがあった。受験に特化するだけでなく、学ぶこと、理解することの喜びや大切さを伝えてほしいと望まれている保護者が多いと考えられる。

【Ⅳ】スマートフォンの利用について

従来は図書館の利用や読書についての質問事項が多かったが、昨年度からスマートフォンの利用についての質問に切り替えた。

㊸ 1日にスマートフォンを勉強以外で使用している時間は平均してどのくらいですか。
[生徒] スマートフォンの使用時間については、1時間未満が27.7%、2時間未満が40.2%、3時間未満が19.1%、4時間未満が6.2%、4時間以上が4.4%と7割程度の生徒が毎日1時間以上の時間を費やしていることがわかった。

また、最も長い時間利用しているものはライン、ツイッターなどのSNSが41.0%、音楽・映像が40.1%、ゲームが意外と少なく14.0%であった。

携帯電話などでのトラブルについて質問したところ、86.1%の生徒がないと答えていたが、架空請求6.1%、チェーンメール4.4%との結果がでた。

[保護者] 家庭でのスマートフォンの利用についての時間制限について質問したところ、制限している家庭が9.9%、していない家庭が83.4%と大半をしめていた。携帯電話のトラブルについては90.8%がないと答えているが、生徒のアンケート結果とは異なっている。

【分析】

本校では昨年度から「ネット、スマホ安全活用講習会」を3学年対象に実施しているが、今後も継続的にこの分野での取り組みが必要と考えられる。

また、携帯電話のトラブルについては、保護者が知っている以上にトラブルは発生していることがわかったので、保護者に注意を喚起することが必要である。

[V] 読書について

[生徒] ㉔ 一カ月に何冊くらい本を読みますか。(漫画、雑誌を除く)

1冊以下が 73.0%、2～3冊が 21.6%、4～5冊が 4.2%、6～9冊が 0.6%、10冊以上が 0.6%であった。

【分析】

1冊以下(漫画・雑誌除く)の者が多数を占める。[IV] においてスマートフォンの使用時間が長いのに反して、読書量が少ないことが懸念される。国語科の課題として1、2年生で読書記録を提出させているものの、読書量の増加につながっていない。今後も国語科と連携をとりながら読書の啓発に努める必要がある。

[VI] いじめについて

今年度から「いじめ」に関するアンケートが加わった。

[生徒] ㉔ 先生は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。肯定的回答(51.8%)、否定的回答(4.8%)、わからない(43.6%)

[保護者] ㉔ 学校はいじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。肯定的回答(37.4%)、否定的回答(6.1%)、わからない(56.4%)

[教職員] ㉔ いじめが起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができている。肯定的回答(83.0%)、否定的回答(10.6%)、わからない(6.4%)

【分析】

本校ではいじめのような案件がほぼないので、「わからない」が多くなっていると考えられる。今年から加わった項目なので経年分析ができないが、

[生徒] ㉓ 生活指導における先生方の指導は適切である。

④ 担任の先生等、相談できる先生がいる。

以上の二項目は肯定的回答が毎年 70～80%を占めているので、教員に対する信頼感は比較的高いと判断できる。しかし、今後も生徒指導を丁寧に行い、いじめが起こっていないか状況把握を密に行う必要がある。

[VII] 土曜日授業の実施に関する事項

今年度は全学年が土曜授業の経験者なので、土曜授業を実施していない3年も1・2年の経験を踏まえて回答できるよう、生徒と保護者の質問項目を少し変更した。

・平成 27、28 年度

㉔ 土曜授業（3年生は土曜講習）は学習効果があると思う。

・平成 29 年度

㉔ 土曜授業は学習効果があると思う(1・2年)。または、あったと思う(3年)。

[生徒] 平成 27 年度 23.3%→平成 28 年度 47.8%→平成 29 年度 36.8%

[保護者] 同 54.1→同 77.4→同 78.0%

[教職員] ㉔ 土曜授業により教育的効果を高めることができたと感じる。15.7→25.0→

14.9%

【分析】

導入初年度からの経年変化を見ると、生徒と教員が昨年度は肯定的回答が高く、今年度は低下している。これは、昨年の3年生が講習を受講する生徒が多く、その効果が高いと回答した生徒が多かったためと思われる。初年度と比べると生徒の肯定的意見が増加しているが、生徒と保護者の間で肯定意見の割合に40%近くの差があることにも留意すべきである。センターテストの変更を見据えながら、学校全体の中で継続的に最良の方法を模索していく必要があると考えられる。